

◆平成 30 年度事業方針◆

〔第五号議案〕

平成 30 年度事業方針について

平成 30 年 3 月で東日本大震災から 7 年を迎えた。開院再開を果たし復興に向け継続して懸命に努力されている会員の皆様に敬意を表したい。

学術活動として多くの会員の方々が参加する研修会等を引き続き企画したい。診療報酬と介護報酬同時改訂の年であることから、関連講習会などを企画したい。

9 月 15 日には第 50 回みやぎ医学検査学会が開催される。50 回の節目の学会ということもあり、より一層、学会参加と共に多くの会員の皆様による討論、情報交換の場として大いに盛り上げていただきたい。さらに、創立 75 周年記念式典を終えたことから、第 50 回記念学会・創立 75 周年記念合併誌を作成したい。

公益事業は、昨年に引き続き HIV 検診、県内自治体や関連団体主催の健康イベント等へ積極的に参加したい。「検査と健康展」の開催は、一般市民の方々に臨床検査技師を認知していただく良い機会であること、そして検査説明の良いトレーニングとなること等から、多くの会員の参加協力をお願いしたい。

昨年、臨床検査技師に関する法律の改正があった。臨床検査技師と医療をめぐる情勢を考えると、他職種との連携、チーム医療への参画が求められ、更に、臨床検査技師の地位確保への動きが日臨技の活動の柱となってきている。主体性を持った会員の活動を期待すべく、職能開発、ニューリーダー育成のための研修会なども行いたい。

今後控えている日臨技北日本支部学会、全国医学検査学会等担当県となれる体力をつけられるよう、新人、中堅、経験豊富である全ての会員が積極的に技師会活動に意識を持って活動することを期待したい。

取り組むべき課題は多くあり、関係省庁、日臨技、他県技師会の動向を注視しつつ、宮臨技として優先順位を考えていきたい。

一 平成 30 年度事業計画案について一

【総務部】

1. 総務・法規・組織

- 1) 会務の執行体制としては、基本的に現在の 7 部門（学術部、精度管理部、広報部、総務部、会計部、公益事業推進部、事務局）で行う。
- 2) 一般社団法人宮城県臨床検査技師会としての公益目的実施事業の遂行と適時適正な規定の見直しに取り組むたい。
- 3) 平成 30 年度は役員改選の年なので、速やかに登記の変更手続きを行う。

2. 各種表彰

- 1) 青木賞（第 50 回みやぎ医学検査学会奨励賞）

第 50 回みやぎ医学検査学会において発表された業績に対し、表彰規程により選考し平成 31 年度定時総会にて表彰したい。

- 2) その他

日臨技を含む各種団体からの推薦依頼に対しそれぞれの推薦要領に従い推薦に努めたい。

【事務局】

1. 事務局運営について

- 1) 日臨技・宮臨技・各関係団体からの情報・案内等を、文書での定期発送のみならず、HP やメール等を活用し、会員への周知を迅速に行いたい。
- 2) 学術部門と連携を図り、会員にとって有益な研修会等を企画開催し、宮臨技会員の学術レベルのさらなる向上を計りたい。
- 3) 公益事業部と連携を図り、日臨技主催「検査と健康展」を企画開催し、臨床検査技師の知名度向上や定期健康診断の必要性の啓蒙を計りたい。
- 4) 検体採取等に関する厚生労働省指定講習会について、開催情報を HP 等で告知し、宮臨技会員のみならず県内の検査技師すべてが受講されるように努力したい。
- 5) 宮城県臨床検査協議会、災害メーリングリスト等、震災復興における宮臨技の取り組みとして、各施設・各団体との連携を図り、災害時の検査技師の役割等について協議し、情報共有を計りたい。

2. 生涯教育研修事業

日臨技総合生涯教育研修委員会と連絡を密にし、会員へ生涯教育研修の必要性と自発的参加を啓発する。日臨技では認定センターにおいて、従来からの認定心電検査技師日臨技認定や認定一般検査技師制度に加え、認定認知症領域検査技師制度、認定救急検査技師制度、認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師制度、認定病理検査技師制度などの各種認定事業を勧めている。これらの認定試験では、受験資格として日臨技生涯教育研修制度を修了していることが必須となっている。そのため、多くの研修会に参加している会員の為にも宮臨技主催研修会はもとより、他団体主催の各種研修会に参加した際の自己申告にも適時対応していき、認定試験を受けやすい環境整備に努め、さらに宮臨技会員のレベルアップに貢献していきたい。

ニューリーダー、職能開発や将来を見据えた臨床検査技師の身分保障への取り組みなど、社会情勢を注視し、日臨技とともに活動を行っていききたい。

3. 平成 30 年度の各種会議開催

- 1) 総会
平成 30 年度 定時総会 1 回
平成 30 年度 臨時総会 必要に応じて
- 2) 理事会
年 6 回開催予定（原則として隔月）
- 3) その他 三役会議
年 1、2 回予定（必要に応じて）

【公益事業部】

1. 関連団体支援事業

宮城県および仙台市における HIV 支援事業や、自治体、関連団体の健康イベントへ理事、公益部門員、多くの会員と共に積極的に参画し、各団体との連携を高め、医療の質向上に努めたい。

2. 技師会主催事業

平成 30 年度も日臨技主催“検査と健康展”を開催する。一般の方に臨床検査を知っていただく貴重なイベントであることから、健康管理・指導のみならず臨床検査技師という仕事に興味を持っていただける様な企画にしたい。

【学術部】（公益目的支出計画事業）

1. 研修会・講習会等

- 1) 昨年度同様、会員のニーズに対応するテーマを選び、研修会、講習会の企画、準備、運営を行う。
- 2) 各部門専門課程研修会 2 回以上を目標に開催したい。
- 3) 部門単独の研修会のみならず、複数部門の連携による合同研修会の開催。
- 4) 共催研修会への協力。

2. 学術部門について

平成 30 年度も 29 年度と同様に会員に有益な学術的情報を発信するために、部門活動の充実と関連部門との連携をより一層強化したい。

- 1) 研修会予定、報告のホームページへの迅速な掲載をおこない情報を会員へ発信していく。
- 2) 精度管理事業への支援体制の推進。
- 3) 検査健康展など公益事業への協力。

【精度管理部】（公益目的支出計画事業）

1. 精度管理事業

平成 24 年度から宮臨技精度管理調査は「日臨技精度管理事業データ標準化システム JAMTQC」の運用を開始した。7 年目となる平成 30 年度もこの Web システムを使用継続して精度管理調査を実施したい。

- 1) 実施項目は昨年同様、日臨技精度保証施設認証制度対象項目を全て満たしたい。
- 2) 実施日程は下記のように行なうこととしたい。

7 月 : 案内郵送後に、Web 参加申し込み開始

10 月 : 試料および要綱（設問）発送

11 月 : 模範解答のホームページ公開、施設別報告書（Web）の解禁

12 月 : 宮城県管轄登録衛生検査所に対する最終報告書を宮城県に送付

2 月 : 全体報告書の発行、送付

3 月 : 精度管理調査報告会（又は精度管理研修会）の開催

2. データ標準化事業

「日臨技精度管理事業データ標準化システム JAMTQC」の運用を開始した。このシステムを使用した解析方法、評価方法の宮城県の適合性について常に再検討を行ないながら運用したい。設問の難易度についても、学術部と常に検討したい。

3. 精度保証施設認証

平成 23 年度から宮臨技精度管理調査の項目数は、精度保証施設認証制度の基準を満たしたので、「一般施設認証」を行うことが可能となった。

自施設の精度保証、データの信頼性の裏付けともなるので、精度保証に対する会員認識を高め、施設認証を受けるメリットについても再考してもらい、新規申請する施設を増やしていきたい。

平成 26 年度から日臨技に直接申請することとなった。詳しくはホームページを参照願いたい。

【広報部】

「ニュースみやぎ」の発行、ホームページ活用の検討を継続して行い、技師会活動の啓発と会員に有益な情報提供を行いたい。今後も発行期日に余裕をもって配布に努めたい。

【会計部】

1. 会員管理

未登録の方や企業への呼びかけを行い、正会員および賛助会員の増加を図りたい。

2. 会計処理

平成 30 年度実施予定業務の内容

理事、各委員の方たちの協力を得て、迅速な会計処理に努めていきたい。また、会費収入と事業支出のバランスの適正化を図り、長期的に安定した法人経営になるよう会計として努力していきたい。